2

《東アジアと倭》

次の**A**・**B**の史料を読み，下記の問に答えよ。 (25 点)

A　興死して弟武立つ。自ら使持節都督倭・百済・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国諸軍事安東大将軍倭国王と称す。

順帝の昇明二年，使を遣して上表をして曰(いわ)く，「封国は偏遠にして，藩を外に作(な)す。(中略)東は毛人(もうじん)を征すること五十五国，西は衆夷を服すること六十六国，渡りて海北を平(たいら)ぐること九十五国。(中略)」と。詔して武を使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事安東大将軍倭王に除す。

注)「上表」＝君主に文書を奉ること。　「除す」＝任命する。

B　大業(たいぎょう)三年，其の王，多利思比孤(たりしひこ)，使を遣わして朝貢す。(中略) 其の国書に曰く，「日出(い)づる処の天子，書を日没する処の天子に致す，恙無(つつがな)きや，云々(うんぬん)」と。帝，之を覧(み)て悦(よろこ)ばず，鴻臚卿(こうろ)に謂(い)いて曰く，「蛮夷(ばんい)の書，無礼なる者有り，復(ま)た以て聞する勿(なか)れ」と。

明年，上(しょう)，文林郎裴清を遣して倭国に使せしむ。

注)「恙無きや」＝お変わりありませんか。　「鴻臚卿」＝外交事務担当官。

「上」＝「帝」と同じ。　「文林郎」＝官職の一種。

問 1　史料**A**は 5 世紀に倭王「武」が中国の南朝に朝貢したという内容の記事である。この頃には「武」を初めとする倭の五王が相次いで南朝に朝貢した。倭の五王が南朝に朝貢した目的について，40 字以内で述べよ。(9 点)

問 2　史料**B**について。

(1)　史料**B**は 7 世紀初頭の倭から中国への遣使に関する記事である。この時の外交方針の特徴を 20 字以内で述べよ。(6 点)

(2)　史料**B**中の「帝」が国書の内容を不満としながらも，翌年「裴清」を倭に派遣せざるを得なかったのはなぜか，「帝」が直面していた外交問題に留意しながら，その理由について 60 字以内で説明せよ。但し，解答に当たっては，「帝」とはだれのことなのかもはっきりさせること。(10 点)